

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 チーム「探究」

テーマ 探究学習を探究し、実践のための力量を向上させる

取組のポイント・成果

【取組の内容とポイント】

- ①外部フォーラムへの参加（オンライン1回）
②研修会（オンラインで講師依頼2回）を実施した。
（※コロナの影響で、当初予定したプレゼンテーション大会 CMA の見学は中止とした）
- 外部フォーラム（8月）では、探究学習の優れた実践をされている先生方から、いくつかの事例を聞き、実践イメージを膨らませることができた。
- 1回目の研修会（9月）「探究学習に関する講演ーその1ー」。初心者向けの内容で、探究学習の意義、テーマ設定の仕方、生徒とのかかわり方と距離感などについて講義を受けた。特に、それまでは漠然としていた「なぜ探究的な学習が必要なのか」について、大半の参加者が理解できた意義は大きかった。（講師：㈱トモノカイ 神原洋子氏）
- 2回目の研修会（11月）「探究学習に関する講演ーその2ー」。㈱トモノカイより廣瀬志保先生をご紹介いただき、「その1」からの発展編として、実際に探究学習の場면을体験する演習を交えた講義を受けた。さらに思考を発展させるツールの紹介や講師の成功体験と失敗談をお聞きすることができ、身近にイメージできるようになった。（講師：山梨県立吉田高校教頭 廣瀬志保先生）

【成果】

- 勤務校で行っている探究学習のレベルや位置づけ（長所と欠点）が明確になった。
- 今までは漠然と行ってきたテーマ設定などが、方向性をもって指導ができるようになったと思われる。
- 全国の実践事例から、学校内に留まることなく、外部機関や地域と密接に連携をとりながら生きた学習がおこなわれていることを改めて知り、本校での実践の方向性を決める参考となった。

今後の課題

勤務校における「総合的探究の時間」は、現在のところ1年生での実施内容と2年生での内容とのつながりが薄く、3年間を見通した探究のカリキュラムとして十分なものとは言えない状況である。今回の活動によって得た知識、ノウハウを生かし、一貫性のある「探究のカリキュラム」として完成させることが課題であると考えます。そのために、次年度は新たな探究のための授業計画を構築し、少しでも理想に近づくような授業実践を試みたい。